

【事業報告】

事業の概要

<公益目的事業>

I 社会経済史・経営史関係

- (1) 当文庫の紀要である『三井文庫論叢』の第48号(2014年)を刊行した。
- (2) 研究員各自のテーマに沿って経済史・経営史にかかわる研究を進めた。また、三井文庫主催の研究会の開催、外部の学会・研究会等への参加(発表)、共同研究の主催、外部機関主催共同研究への参加なども行った。
- (3) 相続講関係資料、三井鉱山関係資料、旧三井物産在米支店関係資料(米国国立公文書館所蔵)などの三井関係資料の調査・収集を進めた。
- (4) 資料保存のため、資料デジタル化を試験的に開始した。マイクロフィルム劣化対策として複製の作成を進めた。書庫内の資料保存環境の整備を行った。
- (5) 三井関係映画フィルムをデジタル動画化した。
- (6) 三井合名会社・三井総元方関係資料の追加公開を行った。
- (7) 所蔵資料分類目録の整理、所蔵図書目録のデジタルデータベース化などを進めた。
- (8) 公的諸機関(地方自治体史編纂等)の資料調査、賛助会社等の広報活動・資料保存・社史編纂、報道関係の取材などに協力した。
- (9) 三井文庫の財団法人としての発足50周年(平成27年)記念事業(展覧会、記念出版など)の準備を進めた。
- (10) 関係会社、資料保存関係者などの三井文庫見学を受け入れた。
- (11) 資料保存関係諸機関が開催する研修会・研究会などに参加した。
- (12) 三井文庫資料叢書「三井大坂両替店『聞書』2」について、原稿の作成・校正を進めた。
- (13) 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金の交付(4件)を受け研究を進めた。

II 文化史・美術館関連事業

A. 文化史関係(資料の保管整理研究事業)

- (1) 特別展図録の発行で執筆の協力をした。
 - 特別展図録『超絶技巧!明治工芸の粋』(浅野研究所発行)
 - 特別展図録『デミタス コスモス 宝石のきらめき★カップ&ソーサー』(岐阜県現代陶芸美術館発行)
- (2) 展覧会図録を作成した。

○図録『特別展 東山御物の美—足利将軍家の至宝—』（三井記念美術館10月発行）

- (3) 『三井美術文化史論集』第8号を発刊した。
- (4) 重要文化財「白氏文集」2巻が、国庫金および東京都の補助金の支給を受けて、今年度と来年度の2年間継続事業として修理がおこなわれ、来年度末に完成予定。
- (5) 文化財保護法第53条の規定に基づく公開承認施設の認定が、前回は平成25年9月25日で期限が切れたため、その後展示室・収蔵庫等の環境調査を実施し、東京文化財研究所の査定を受け、文化庁より平成26年9月17日付で新たに承認証を受領した。（期限は平成31年9月16日まで）
- (6) 文化史資料の整理・調査・研究を行い、論文・解説の執筆、研究誌への投稿、各種学会・シンポジウムへの出席、他館・個人所蔵家等への資料調査などの活動を行った。
- (7) 他館における展覧会等に所蔵文化史資料を出品し、学術文化の振興に寄与した。
- (8) 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金の交付（1件）を受け研究を進めた。

B. 三井記念美術館関係（資料の公開事業）

- (1) 今年度は、下記の6回の展覧会を開催したが、平成26年4月1日から平成27年3月31日までに合計205,918人が入館した。平成17年10月8日の開館以来の累計入館者数は1,562,513人となった。
 - ①「三井家のおひなさま 特集展示『宴のうつわ』」（前年度より引き続き開催）
（平成26年4月1日～4月6日） 入館者数 2,874人
 - ②「特別展 超絶技巧！明治工芸の粋—村田コレクション—」
（平成26年4月19日～7月13日） 入館者数 87,964人
 - ③「<美術の遊びとところⅦ>能面と能装束—みる・しる・くらべる—
特別展示 三越伊勢丹所蔵 歌舞伎衣裳『名優たちの名舞台』」
（平成26年7月24日～9月21日） 入館者数 20,629人
 - ④「特別展 東山御物の美—足利将軍家の至宝—」
（平成26年10月4日～11月24日） 入館者数 42,744人
 - ⑤「雪と月と花～国宝『雪松図』と四季の草花～」
（平成26年12月11日～平成27年1月24日） 入館者数 27,769人
 - ⑥「特別展 デミタス コスモス～宝石のきらめき★カップ&ソーサー～」
（平成27年2月7日～3月31日） 入館者数 23,938人 *会期終了日 4月5日
- (2) 天皇皇后両陛下の行幸啓
平成26年11月22日、「特別展 東山御物の美—足利将軍家の至宝—」御観覧のため天皇

皇后両陛下が行幸啓された。清水館長が先導、末松三井文庫理事長、大橋読売新聞社専務取締役等、展覧会関係者が両陛下のお出迎え、赤沼参事、樋口学芸員がご説明に当った。

- (3) 各展覧会に合わせたワークショップを開催したほか、親子鑑賞会、小・中学校の教職員研修会、学校への出張講座、博物館実習生の受け入れなど、小中学生・高校大学生等を対象とする教育普及活動に積極的に取り組んだ。
- (4) 土曜講座・展示解説など、一般客を対象とした普及活動を行った。また、中央区の要請を受け、区民対象の生涯学習の場として「中央区民カレッジ」(合計5回)を前年に引き続き開催し、地域の文化振興に寄与した。

Ⅲ 松の茶屋保存公開事業

今年度は、昨年度に引き続き茅葺屋根の葺き替え等屋根関係を中心に修復工事を実施した。「公開」に関しては、平成26年5月に東京工業大学大学院の建築学専攻の藤岡洋保教授・山崎鯛介准教授・学生約20名の見学会を実施した。

また、平成26年10月に外部講師(鈴木邦夫埼玉大学名誉教授)を招き、「三井高大コレクションの形成と「松の茶屋」土地の変遷」についての研究会を実施し14名が参加した。

<収益事業>

I 不動産賃貸業

三井花桐ビルは、平成26年2月以降全フロア満室となっている。今年度は全館照明器具更新工事、給水配管バルブ更新、配管洗浄工事・自動扉改修工事等を実施した。